

CITIZEN

2023年度（2024年3月期）  
第1四半期決算説明会

シチズン時計株式会社  
2023年8月14日

2023年度第1四半期業績概要

広報IR担当の古川です。  
2023年度第1四半期決算につきまして、ご説明します。

(単位：億円)	2022年度	2023年度	前年同期比	
	1Q(4-6月)実績	1Q(4-6月)実績	増減額	増減率
売上高	713	726	+13	+1.9%
営業利益	55	55	▲0	▲0.9%
営業利益率	7.8%	7.6%	-	-
経常利益	85	80	▲5	▲6.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	72	62	▲9	▲13.5%
為替レート	¥126/USD ¥137/EUR	¥135/USD ¥147/EUR		

- 売上高 主に時計事業が堅調さを保ち増収
- 営業利益 主に工作機械事業が伸び悩みほぼ前年並み

第1四半期の損益計算書の概要です。

売上高は主に時計事業が堅調さを保ったことで726億円、前年比1.9%の増収となりました。

一方、営業利益は工作機械事業の売り上げの伸び悩み等により55億円と、ほぼ前年並みとなりました。

経常利益は80億円です。前年比では、為替差益が減少したことと、自己株式取得の費用など経費が増加したことにより、6.5%の減益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は62億円、13.5%の減益となりました。

経常利益の減少の他、特別利益が減少したことが主な要因となっています。

今期は投資有価証券売却益が5億5千万円計上されておりますが、昨年度はそれを上回る不動産売却益がありました。

2023年度第1四半期 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2022年度		2023年度		前年同期比	
	1Q(4-6月)実績		1Q(4-6月)実績		増減額	増減率
<b>売上高</b>						
時計事業	351	370	+19	+5.5%		
工作機械事業	199	195	▲4	▲2.2%		
デバイス事業	109	108	▲1	▲1.0%		
電子機器他事業	52	52	▲0	▲0.7%		
合計	713	726	+13	+1.9%		
<b>営業利益</b>						
時計事業	39 (11.2%)	45 (12.2%)	+5	+14.8%		
工作機械事業	27 (13.5%)	23 (12.0%)	▲3	▲13.4%		
デバイス事業	▲0 (▲0.5%)	0 (0.4%)	+0	-		
電子機器他事業	3 (6.6%)	1 (2.9%)	▲1	▲56.8%		
消去又は全社	▲13	▲15	▲1	-		
合計	55 (7.8%)	55 (7.6%)	▲0	▲0.9%		

4

セグメント別の業績の明細です。

時計事業は、売上高は370億円、前年比5.5%の増収。営業利益は45億円、前年比14.8%増と増収増益となり、営業利益率は12.2%となりました。

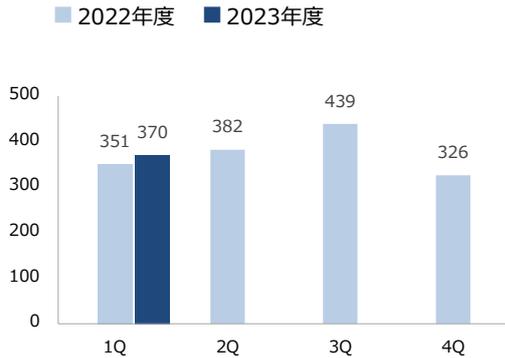
工作機械事業は、受注が調整局面入りする中、売り上げが伸び悩み、売上高は195億円、前年比2.2%減、営業利益は23億円、前年比13.4%減と減収減益となりました。営業利益率は12%です。

デバイス事業は減収となりましたが、固定費を抑えたことで黒字化、電子機器他事業は健康機器の需要が一巡したこともあり、減益となりました。

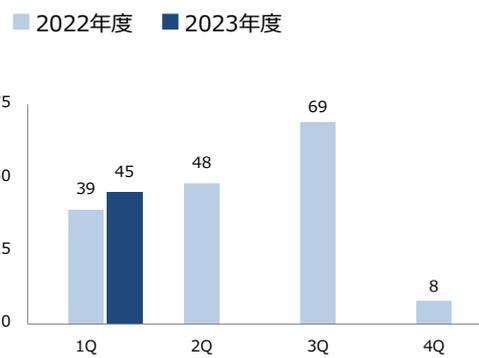
第1四半期（4-6月）

- 完成品販売 国内市場が回復傾向をたどった他、欧州市場も好調さを保ち増収
- ムーブメント販売 減収となったものの、機械式ムーブメントは回復傾向

売上高(億円)



営業利益(億円)



それでは、事業別の概況をご説明します。

時計事業の完成品販売につきましては、国内は、『ATTESA』や『PROMASTER』など中核ブランドが好調に推移した他、インバウンド需要も徐々に回復が見られ増収となりました。また、欧州も引き続き好調に推移し、増収となりました。

ムーブメント販売につきましては、アナログクォーツは多針タイプの回復が弱いこともあり減収となりましたが、機械式ムーブメントは前年並みの売上高に戻っています。

前年同期比増減率（現地通貨ベース）

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減  
 その他の地域はCITIZENブランドのみの増減率



- 国内 『ATTESA』、『PROMASTER』が全体を牽引したほか、インバウンド需要も回復基調
- 中国 行動制限の解除に伴い、緩やかではあるものの徐々に回復基調
- 他アジア 人流の回復に伴い香港やシンガポールが上向き
- 北米 宝飾チェーン・百貨店等に慎重さが見られたがEC販売・トラベル流通が下支え
- 欧州 英国・イタリアが好調さを保ったほかフランスが取扱店を拡大し、増収

続いて、現地通貨ベースの地域別の前年比売上高についてご説明します。

赤色は国内ですが、先ほど申し上げた通り、『ATTESA』や『PROMASTER』が全体を牽引した他、インバウンド需要も上向いて増収となりました。

黄色の中国は、実店舗を中心に消費は緩やかではありますが回復し、増収となりました。

薄緑のアジア地域は、人流の回復に伴い香港やシンガポールなどが好調に推移し、増収となりました。

水色の北米は、宝飾チェーンや百貨店等で仕入れに慎重な姿勢が見られましたが、EC販売やトラベル流通向けの売り上げは好調に推移しました。

前年比減収にはなりませんが、当社商品のセルスルーは前年を下回っておらず、小売りサイドの流通在庫も健全な状態が維持されており、足元の7月の売上高は前年比大きく増収になっています。

薄紫色の欧州は英国、イタリアが好調さを保った他、フランスが取扱店を拡大し、増収となりました。

## Series 8

### GMT機能を搭載した880 Mechanical

- 24時間針を使い第2タイムゾーンの時刻表示と、両回転するベゼルを使うことで3つのタイムゾーンを確認できるGMT機能搭載
- ムーブメントの耐磁性能を強化した「第2種耐磁」を備え、また、平均日差-10~+20秒、持続時間約50時間と高い性能を実現
- 裏ぶたは、ムーブメントの鼓動を感じられるシースルーバックを採用



発売 : 2023年秋  
 価格 : 希望小売価格 220,000円(税込)  
 モデル : 2モデル

発売 : 2023年秋  
 価格 : 希望小売価格 242,000円(税込)  
 限定数量 : 世界限定 1,300本

7

続いて、中期経営計画に掲げているプレミアムブランド及び機械式時計の強化に向けた取り組みについて、ご説明します。

新たな機械式時計ブランドとして強化を図っている『Series 8』において、GMT機能を備えた新開発機械式ムーブメントを搭載した880 Mechanicalを今年の秋以降に販売開始します。

この商品ラインアップの拡充を機に、欧州や北米においても本格的な販売展開を進めてまいります。

## ATTESA



発売：2023年6月  
価格：希望小売価格 286,000円(税込)  
限定数量：世界限定 1,200本

### ■ さそり座の一等星 アンタレスをイメージした「Power of Antares」

- 『CITIZEN ATTESA』のACT Lineからエコ・ドライブGPS衛星電波時計の最上位ムーブメントF950搭載
- サファイアガラスのベゼルを備えた特別カラーの限定モデル

8

また、チタニウムウォッチブランドの『CITIZEN ATTESA』においては、さそり座の一等星アンタレスをイメージした「Power of Antares」を6月に世界限定1,200本で発売しました。

30万円近い価格帯でありながら、国内ではセルインベースで完売しています。

## 世界をつなぐ美しい海をイメージした「UNITE with BLUE」

- 文字板には、100%再生ポリカーボネートを採用。美しい海をイメージした今までにない新しい輝きの構造色文字板を開発
- 色素による着色ではなく、インク層内のマイクロな構造に光が反射することで現れるさまざまな表情や色味が特長



発売 : 2023年6月  
価格 : 希望小売価格 44,000~220,000円(税込)  
モデル : 6ブランド全7モデル 数量限定

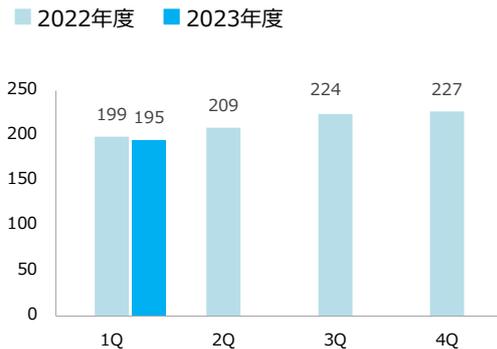
9

こちらは6月に販売した、世界をつなぐ美しい海をイメージしたブランド横断企画「UNITE with BLUE」です。地球上のあらゆる大陸、生命を1つに繋ぐ海の美しさを表現するため、構造色インクを使用し、今までにない新しい輝きの文字板を開発しました。光を反射させることで輝きを生み出すエコ・ドライブならではの文字板が高く評価され、このコレクションもセルインベースで完売しています。

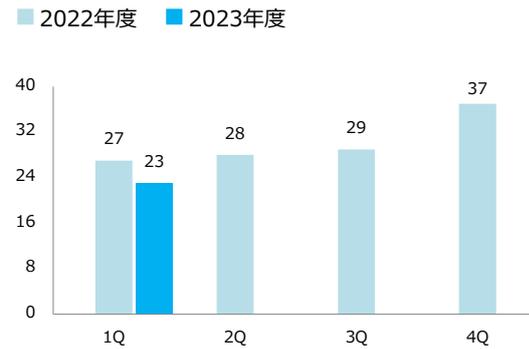
第1四半期（4-6月）

- 国内販売 設備投資への慎重姿勢が広がる中、自動車関連等が伸び悩みわずかに減収
- 海外販売 欧州・米州市場が堅調に推移したものの中国・アジア市場の低迷を受け減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



続いて、工作機械事業の概況をご説明します。

売上高は195億円と前年比2.2%の減収、営業利益は23億円と前年比13.4%の減益となりました。

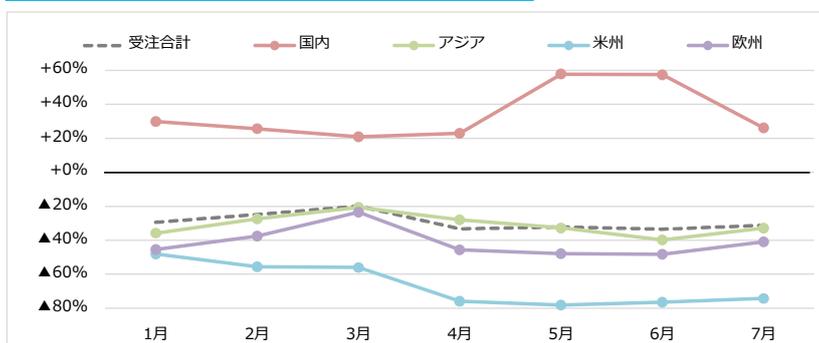
国内販売は、設備投資への慎重姿勢が広がる中、自動車関連等が伸び悩みわずかに減収となりました。

海外販売は、欧州や米州が堅調に推移したものの中国・アジアの低迷が響き、減収となりました。

前期の第4四半期に過去最高の売上高を計上した反動もあり、4月の売り上げが未達となり、5月、6月は回復し計画並みの売り上げとなったものの、遅れを取り戻すに至らず、減収となりました。

営業利益は、売り上げの伸び悩みと、人件費、部材コストや減価償却費等の増加により減益となりました。

前年同月比増減率 (3カ月移動平均受注台数)



1Q前年同期比増減率 (四半期受注台数)

- 受注合計 ▲34% 受注は概ね高めの水準であるものの調整局面が継続
- 国内 +57% リードタイム長期化の改善により自動車関連等が一時的に増加も減速傾向
- アジア ▲40% 中国のゼロコロナ政策終了後も市況は回復に至らず低迷
- 米州 ▲76% 景気後退懸念の高まりとともに減速傾向
- 欧州 ▲48% インフレや景気後退懸念、エネルギー価格の高騰等から設備投資意欲は限定的

こちらは、地域別の受注状況です。

折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率を示しています。

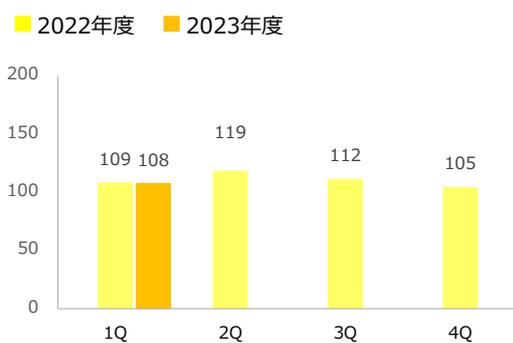
下の表は第1四半期の前年同期比増減率を示しています。  
受注は全体的に調整局面が続いており、受注合計は前年比34%減となりました。

国内は、長期化していたリードタイムが改善したことで自動車関連等の受注が一時的に増加し、前年比57%増となりましたが、7月以降は減速傾向となっています。  
アジアは、中国のゼロコロナ政策終了後も市況の回復には至らず、アジア地域全体では前年比40%減となりました。  
米州は、金融引き締めなどにより、減速傾向を辿っており、前年比76%減となりました。  
欧州は、インフレや景気後退懸念、エネルギー価格の高騰等から設備投資意欲は限定的なものとなり、前年比48%減となりました。

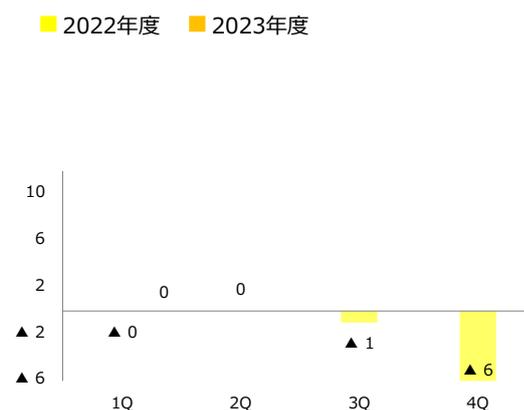
第1四半期（4-6月）

- 精密部品 自動車部品は自動車メーカーの生産回復に伴い緩やかに上向き基調  
小型モーターは医療関連など幅広い分野の市況回復が寄与し増収
- オプトデバイス 主に照明向けLEDの落ち込みを受け減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



※ 2023年度1Qは黒字化（2022年度1Qは営業損失）

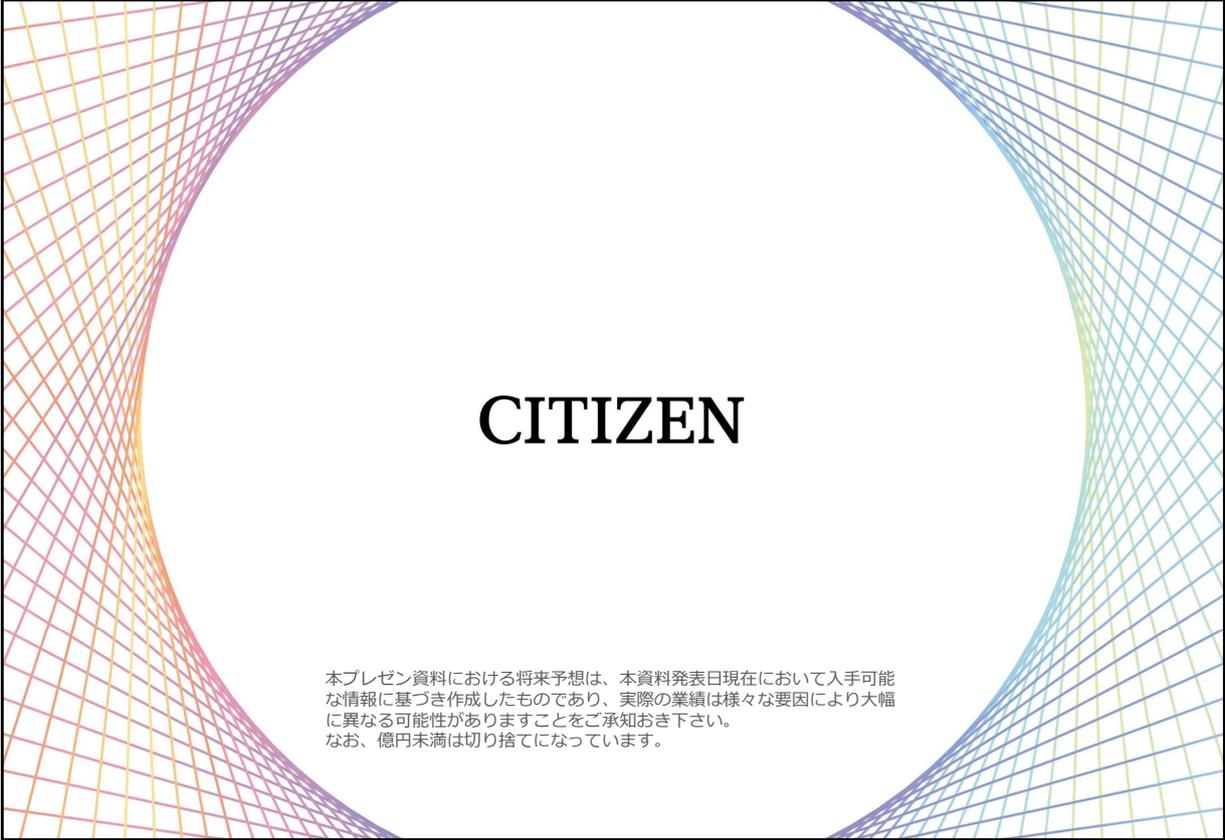
最後に、デバイス事業について説明します。

売上高は108億円と前年比1.0%減となりましたが、営業利益は黒字化しました。

自動車部品は、減収となりましたが、第2四半期以降、売り上げが増加し黒字転換する見通しとなっています。

小型モーターは医療関連など幅広い分野から受注があり、好調を維持し、増収となりました。

オプトデバイスは、主に照明向けLEDの売り上げが回復せず、減収となりました。



# CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。  
なお、億円未満は切り捨てになっています。

私からの説明は以上となりますが、連結業績予想については変更せず、5月に発表した前回予想を据え置いていることを申し添えておきます。  
以上で説明を終えます。  
ご清聴ありがとうございました。

## 2023年度 連結業績予想及び配当金予想

- 連結業績予想及び配当金予想は前回予想(2023年5月12日)を据え置き

## 2023年度通期業績予想

(単位：億円)	2022年度 実績		2023年度 予想		増減額		増減率	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,476	3,013	1,530	3,100	+53	+86	+3.6%	+2.9%
営業利益	123	237	126	250	+2	+12	+2.0%	+5.4%
営業利益率	8.4%	7.9%	8.2%	8.1%	-	-	-	-
経常利益	168	290	127	260	▲41	▲30	▲24.4%	▲10.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	218	97	200	▲29	▲18	▲23.3%	▲8.4%
為替レート	¥131/USD ¥138/EUR	¥135/USD ¥141/EUR	¥130/USD ¥140/EUR	¥130/USD ¥140/EUR				

## 2023年度配当金予想

- 年間配当金予想 40円 (中間 20円 / 期末 20円)  
参考：2022年度 年間配当金 34円 (中間 15円 / 期末 19円)

## 為替影響額 (1円円安の年間影響額)

	USD	EUR
売上高	+9億円	+4億円
営業利益	+2.5億円	+2億円

## ■ 前回予想(2023年5月12日)を据え置き

(単位：億円 / %；営業利益率)

売上高	2022年度 実績		2023年度 予想		増減額		増減率	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
時計事業	733	1,500	750	1,550	+16	+49	+2.2%	+3.3%
工作機械事業	409	861	445	870	+35	+8	+8.8%	+1.0%
デバイス事業	229	447	233	475	+3	+27	+1.6%	+6.2%
電子機器他事業	104	204	102	205	▲2	+0	▲2.6%	+0.2%
合計	1,476	3,013	1,530	3,100	+53	+86	+3.6%	+2.9%
営業利益								
時計事業	88 (12.0%)	166 (11.1%)	87 (11.6%)	170 (11.0%)	▲1	+3	▲1.2%	+2.2%
工作機械事業	55 (13.5%)	122 (14.2%)	64 (14.4%)	125 (14.4%)	+8	+2	+15.8%	+2.4%
デバイス事業	0 (0.1%)	▲8 (▲1.8%)	2 (0.9%)	7 (1.5%)	+1	+15	+809.1%	-
電子機器他事業	7 (7.1%)	11 (5.6%)	3 (2.9%)	8 (3.9%)	▲4	▲3	▲59.7%	▲30.1%
消去又は全社	▲27	▲54	▲30	▲60	▲2	▲5	-	-
合計	123 (8.4%)	237 (7.9%)	126 (8.2%)	250 (8.1%)	+2	+12	+2.0%	+5.4%